# 太宰府人物志

資料室だより㉒

## 竹田定簡と「太宰府址碑」（その二）

以前、この欄で竹田定簡著『太宰府備考』所載「太宰府旧蹟碑」碑文案と現在政庁跡に建つ「太宰府址碑」の関係について述べたことがあります（平成19年4月1日号）。今回はその続編です。

前回の要旨は、太宰府旧蹟碑の碑文案が、当時福岡県令であった渡辺清の撰とされる「太宰府址碑」碑文と内容的に酷似しているということでした。

ここでの謎のひとつは、これだけ類似した内容をもっているのに、何故、定簡ではなく渡辺の撰文とされているのか、ということです。また、「太宰府址碑」が建てられたのは明治13（1880）年です。定簡が没したのはその9年後の同22年ですから、この時にはまだ存命しています。とすれば、定簡もこの建碑になんらかの関わりがあったのではないか、と考えられます。

そこで、福岡県立図書館に寄託されている竹田文庫（福岡藩儒竹田家に関する資料群、竹田準氏原蔵）を調べてみましたところ、いくつかの関連資料を見出すことができました。ひとつに明治12年に定簡が「太宰府旧蹟碑」のそれを書き改めた碑文案があります。「太宰府址碑」造立の前年にあたります。それには「福岡県令渡辺」、あるいは「御笠郡博古某等、県令の命を受けて」などと、渡辺の建碑への関与を示す文言を挿入しようとした形跡がみられますが、結局、定簡はこれを採らなかったようです。

一方、現在の「太宰府址碑」碑文には、渡辺の関与が記されています。つまり、御笠郡諸子の建碑運動に対して渡辺がその志を嘉して、資金援助をした、そして碑銘を作った、とみえるのです。わたしは、この両者の碑文の相違に二人の間にあったなんらかの確執が読み取れるのではないか、と憶測しています。竹田文庫には、定簡の元治・慶応から没年にいたるまでの連続した日記も残されています。関係箇所をざっと通覧して、関連する記述をいくつか見出しましたが、これもまだ精査が必要でしょう。

資料室紀要『年報　太宰府学』第2号には、この一件に関してこれまでに分かったこと、および『太宰府備考』の翻刻を掲載しています。市民図書館に置いてますので、ご笑覧いただければ幸いです。

市史資料室　重松　敏彦